

地域型センターの具体的取組事例

①目指す姿・困っていたこと

例年、認知症に関する展示や周知活動等を行っていたが開催場所や手法が固定化。そのため、認知症に関して関心のある方のみへのアプローチとなっていた。

③効果（見込み）

前年度の展示と比較し、65歳未満の方の閲覧が多く、多世代へ認知症啓発活動につながったと考えられる。

②取組内容・工夫したこと

認知症月間の展示

認知症月間に合わせ、西部コミュニティセンターと逢妻交流館にて認知症啓発の展示を実施。

多世代の方に興味を持っていただけに、ロバ隊長のペーパークラフトの配布や展示を見て頂いた方にシールの貼付をして頂く参加型の形式とした所、両展示合わせて461名の方の参加があり、その内約8割の方が65歳未満だった。



沢山の方に参加いただきました！



季刊誌の活用

季刊誌での認知症関連の記事をシリーズ化し、認知症の啓発に努めた。



認知症について考える Vol.1

シルバー人材センター会員への認知症サポーター養成講座

(ぬくもりの里包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

旭地区の高齢化率(R6.10時点)
50.3%

⇒人口の半分以上が高齢者に
総人口は年々減っているが、
高齢者人口はほぼ横ばいのまま…
⇒若年人口減の現状では「若い人に活躍してほしい」は難しい？
⇒今地域で活躍している
“若い高齢者”に着目！

③効果（見込み）

・アンケートより、「自身の姉が認知症だが接し方を改めたいと思う」「認知症は誰でもなると分かった」など具体的な感想が聞かれ、認知症を身近なこととして捉えてもらえたと感じた。
・1件包括への新規相談につながった事例があった。

“若い高齢者”に働きかけができ、認知症にやさしいまちづくりへの第一歩となった。

②取組内容・工夫したこと

若い高齢者はどんなところで活躍しているだろうか？
⇒**シルバー人材センターの会員**に働きかけてみよう！



とよ太郎 とよ姫
©(社)豊田市シルバー人材センター



19名の会員さんに参加いただけた。
講座の内容は認知症の方への対応のポイントと、自分自身の認知症予防に関することを重点的に実施。

シルバー人材センター足助支所(旭担当)に開催の打診したところ、10月の「シルバーの日」にて認知症サポーター養成講座を開催させてもらえることに。

認知症の予防についての考え方

認知症は予防できるのか…

- 認知症の発症のリスクを少なくすること
- 認知症の進行をおくらせること

<ポイント>

- ①生活:生活習慣病を予防する
- ②食事:バランスよく食べる
- ③運動:身体と脳を活性化する



中学1年生に向けた認知症サポーター養成講座の実施

(社協包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

認知症サポーター養成講座を開催しているが、参加者が30代～40代以上が多く、若い世代への認知症の啓発活動が不十分になっている。若い世代に認知症の啓発ができないままだと、認知症に対する正しい知識・理解がされず、地域での見守り意識が薄い世代が出てきてしまう。

③効果（見込み）

独自に作成したアンケートを見ると『受講前は、認知症になると何もできなくなっていたが、そうでないことが分かった』や『認知症の人、自分でできることはやりたいと思っていることを知って驚いた』と書かれており、今回の講座で認知症について正しい知識をつけてもらうことができた。

②取組内容・工夫したこと

取組内容

- ・朝日丘地区4小学校の生徒が集まる朝日丘中学校で中学1年生を対象に認知症サポーター養成講座を開催

工夫したこと

- ・地域の子どもが集まる中学校を対象にすることで、『認知症の正しい知識・理解と地域での見守り意識向上』を促進できる。
- ・既に学校側で当年度カリキュラムが組まれているため、R6年2月に教務主任へR6年度の開催を打診。そこでおおよその開催時期・打ち合わせ時期を決め、R6年10月に本打ち合わせ（開催時期・内容・方法）を実施。
- ・先生から「学年全員を集めて体育館での講座は、生徒が集中できない可能性がある」とご意見をいただいたため、会場は学習室にし、1時限2クラスごとに開催。1～4時限目に開催。
- ・グループワークを組み込み「本人座談会のDVDから何を感じたか」や「認知症の人に対して自分は何ができるか」を共有してもらった。



出張相談へようこそ！

(足助地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

【目指す姿】

○地域の人にとって身近な高齢者の相談機関

【困っていたこと】

○地域包括支援センターの周知不足
○相談するタイミングや内容がわからないという声があった。

③効果（見込み）

【効果（見込み）】

○困りごとを抱えていそうな人を把握し、地域包括支援センターにつなげることができた。
○喫茶店や移動販売という地域のインフォーマルサービスとの連携強化。

②取組内容・工夫したこと

【小鳩屋】

- 奇数月第3火曜日に街中の喫茶店「小鳩屋」にて出張相談。
- 毎回、健康や福祉に関するテーマを決め、参考資料をもとにお茶をしながら座談会を実施。
- 小鳩屋出張相談のチラシを作成し、訪問時に配布。



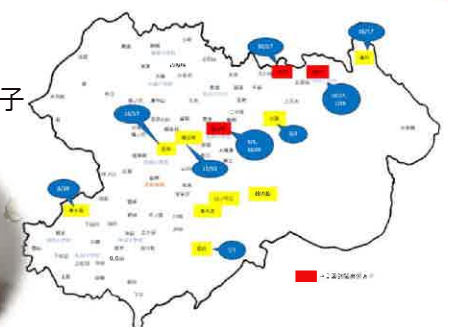
小鳩屋チラシ

▼小鳩屋訪問の様子



【おいでん便】

- 偶数月に移動販売「おいでん便」ルートにて巡回訪問。
- おいでん便利用者に包括PRチラシを配布。スタッフや利用者とコミュニケーションをとりながら、生活状況や地域の実態について聞き取り。
- 包括の介入が必要となりそうな人がいた地域には再度訪問した。
- CSWとおいでん便に同行し、情報共有を行った。



▲おいでん便訪問実績

①目指す姿・困っていたこと

あらゆる世代が認知症について関心を持ち、地域の見守り力を高めたい！



そのために…

認知症は遠い存在ではなく、身近な存在であると感じてもらいたい！

③効果（見込み）

・認知症について知識を得るだけでなく、体験や話し合いを通じて、体感的に認知症について知ってもらう機会になった。

・その結果、「認知症の人にやさしくしたい」「自分で何ができるか考えたい」等の感想を参加者から聞くことができ、地域での見守り力向上に一步近づいた。

②取組内容・工夫したこと

★★地域の美容院 NOBLE 四郷店★★

認知症についてのプチ講座＋VRを使用した認知症体験

知識として認知症について知ることに加え、実際に認知症状を体験することにより、「自分ならどうしてほしいか？」と認知症をより身近に考える機会に！

若手の方からベテランの方まで参加いただきました！



「あまり急かさないで欲しい」等の意見がありました。

★★★★★猿投農林高等学校★★★★★

認知症ステップアップ講座を実施。

8か月前に行った認サポの内容を振り返りつつ、認知症に関する動画を視聴。「どのような対応ができるか？」「自分ならどう思うか？」をみんなで話し合うことで、地域での生活を続けるために回りの環境が影響することを覚えてもらいました！



担任の先生と一緒ににぎやかな雰囲気の中で講座を行うことができました！

広げよう★和っかふえの輪

(石野の里地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

- ・コロナ禍で休止していた認知症カフェ「サロン石野」の再開についての必要性や再開後に継続できるのか、ボランティアや人員面での不安があった
- ・多世代に向けて認知症の方や家族が安心して生活を送ることができる地域を目指したい

③効果（見込み）

- ・第1回は39名、第2回は雪が降っていたが22名と多くの方に来ていただけただけでなく、認知症に関する啓発を通じて、地域住民の認知症に対する抵抗感が薄れ、興味・関心を持った印象を受けた
- ・第2回は中学生と大学生のボランティアの参加によって、地域の高齢者の笑顔がより多く見え活気にあふれていた
- ・地域の高齢者と中学生とがお互いに顔の見える関係を築きかけができたことで、中学生が加齢や認知症について考えることができた

②取組内容・工夫したこと

1.アンケートにてニーズ調査

- ・「認知症」という言葉を聞いただけで「俺には関係ない」「認知症って書いてあると行かないな」と認知症に対する抵抗感が強いことが分かった

2.認知症カフェの名称変更について

- ・ゆっくりした時間を和やかな雰囲気でも過ごしていただきたい
- ・ひらがなの「かふえ」は柔らかな印象に
- ・世代関係なく、地域が一つになって認知症の方や家族が安心して暮らせる地域を目指したい思いから「まったり和っかふえ」に改名した

3.「まったり和っかふえ」を2回開催しました！

- ★多世代が気軽にカフェに立ち寄っていただけるようにチラシを工夫した
- ★社会福祉法人東加茂福祉会と共催で開催し、特養の入居者やデイサービス利用者当日の飲食物の準備やコースター作りを依頼し、社会参加の機会となった
- ★机上の駄菓子や紙風船を用いて参加者同士が昔話をされ、回想法につながった
- ★自身の体に関心を与えるため、認知症予防や健康に関する講話を入れた
- ★愛知工業大学学生さんから空間づくりについての助言をいただいた
- ★中学生ボランティアは事前に折り紙の作品を作り、当日は高齢者と交流した
- ★「やきいも」や「認知症よくわかるた」を通じて、楽しく和やかな雰囲気になった



認知症を「見て・聞いて・体感する」

(いなぶ包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

認知症の講座を開催しても、
「他人(ヒト)ごと」
になっていないか。

目指す姿
認知症は「自分(ジブン)ごと」

認知症を知るきっかけは多い方が
いいのでは…
そうだ！「五感に訴えかけよう」

③効果（見込み）

- ・ 認知症サポーター登録
2名増(前年比)
- ・ 上記サポーター1名は認
サポ養成講座の寸劇ス
タッフとして参加
- ・ 認知症カフェのボラン
ティア協力者が増えた。

②取組内容・工夫したこと

誰にでもわかりやすく、認知症という病気を身近な存在に感じ
ていただくため、視覚や体験を通じた取組を実施しました。



9/28映画会の共催
(コミュニティ会議福祉部会主催)



リアルな認知症の進み方、たくましく生
きる夫婦の絆を映像でわかりやすく学ぶ
ことができました。



9/1～9/30認知症月間に合わせ
交流館で認知症書籍を展示



10/27稲武ふれあいまつり認知症体験VR体験
参加者からは「認知症になるとこんな感じなんだ
ね」「距離感がつかめないと怖いね」など体験を
通じて様々な感想をいただきました。

高齢者の移動支援に向けた話し合いを開催！

豊田地域ケア支援センター

①目指す姿・困っていたこと

梅坪台地区は商業施設は多いが、
坂道が多く買い物へ行くことに
困っている高齢者は多い。
また身寄りがいない、
家族は遠方在住のため
支援を受けたい方も多くみられる。

目指す姿

住み慣れた自宅、地域での生活を
長く続けられる。

③効果（見込み）

- ・ 自分の目で見て、商品を選ぶこ
とができる。
- ・ 地域住民の交流機会になっている。
- ・ 地域にある介護事業所と、困り
ごとだけでなく支援に必要な情
報共有ができる関係性を築くこ
とができた。
- ・ 若草苑が主体の事業として始めら
れるようになった。

②取組内容・工夫したこと

取組内容

若草苑から地域に貢献する取り組みに着手したいというお話し
をいただき、社協CSW、地域支援課を交え梅坪台地区での
ニーズの意見交換会を開催。月1回買い物の送迎支援を若草苑
に行っていただけることになった。
地域ケアは買い物に困っている高齢者にお声がけをし繋げた。
若草苑の事業として軌道にのれるよう、買い物支援の振り返り
及び次回の買い物支援の日時等調整のために
毎月打ち合わせの場を設けている。



工夫したこと

- ・ 家族の支援を受けたい方を優先にお声がけし繋げた。
- ・ 地域住民との関わりの深い民生委員さんにも企画に参加して
いただき、支援が必要な方の把握に努めた。

認知症すごろく～認知症サポーターステップアップ講座～

(ふくしの里地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

- ☑「よく忘れる！(笑)」
「自分も近づいてきている！(笑)」
とは言うものの…漂う他人ごと感

- ☑ 認知症講座のマンネリ化

認知症は誰にでもなる可能性
がある「我がごと」。
改めて理解者の輪を広げたい。

③効果（見込み）

- ♫ コマを進める毎に本人、家族、
地域の人それぞれの立場で気
持ちや考えが共有でき、認知
症を身近に感じてもらうこと
ができた。

- ♫ エンディングノートについて
勉強会の希望が上がる。
⇒開催決定！

②取組内容・工夫したこと

「すごろく」で認知症の疑似体験

高齢者クラブ『大草長寿会』で認知症サポーターステップアップ講座を開催。認知症が進む経過をすごろくにし、コマを進めながら認知症の症状や予防、社会資源について理解を深めた。

各コマの説明では「とよた認知症あんしんガイド」をフル活用。一緒に楽しみながら豊田市独自の社会資源を伝えることができた。



終活のコマではエンディングノートを紹介。終活について考えるきっかけづくりができた。



受講者から「ここまで深く知ることがなかったので面白かった」、「興味深かった」と感想をもらった。

地域と共存する包括を目指して ～認知症の方の社会参加～

(地域包括支援センターかずえの郷)

①目指す姿・困っていたこと

1998年より認知症相談窓口を設置し個別相談対応を続けている。サポーター養成講座やステップアップ講座、2012年からは毎年徘徊高齢者等捜索模擬訓練を実施し、認知症への理解を深め安心して暮らせる地域作りに取り組んできた。相談窓口への相談はコロナ禍以降、年々増加してきている。2024年度、新たなステップとして地域が認知症を受け入れ、住み慣れた地域での活動に参加できる環境を整えていきたいと考え、取り組みを始めた。

③効果（見込み）

<本人>

初回参加時、せっかく自宅近くに来たため、仏壇とお墓参りをしたいと希望し、家族とお参りをしてからホームへ戻られた。

<自治区>

初回参加後、参加者に「会いたい」との希望で新たなサロン参加者が増えた。

<包括>

サポーター養成講座や認知症の方を受け入れていただいたことで、早期の相談につながった。今後、他自治区へ拡大できるよう取り組んでいく。

②取組内容・工夫したこと

2019年認知症を発症し2年後、地域へ影響が及びはじめ、家族は地域に知られたいとの思いがあり、自宅から離れた地域の施設に入所。しかし、本人に合わず1921年認知症対応型共同介護へ入居。環境を整え本人に寄り添い関わることで、症状が安定。2024年、認知症対応型共同介護職員と馴染みのある自治区のサロンに参加できないかと考え取り組みを開始。

認知症対応型共同生活介護

- ・4月：家族へ自治区サロンに参加について説明。「本人が行ってみたいのであれば是非」と了承。

包括

- ・5月：自治区サロン代表者へ受け入れについて相談。
- ・認知症サポーター養成講座開催を2月に計画。

サロン参加

- ・6月：家族、認知症対応型共同介護職員、包括職員と共に参加。その後、定期的に参加。

- * サロン参加時には、職員は必要に応じてフォローに入るようにし、本人の思いや気持ち、地域の方との関わりを大切にするように心掛けた。
- * 参加を重ねる中で、輪の中心となり地域の方から声を掛けていただけ、本人も「楽しい、また行きたい」と言われている。

出張相談 inささえあいネット登録店

(地域包括支援センター猿投の楽園)

①目指す姿・困っていたこと

地域包括支援センターを知らない地域住民はまだ多いことを実感。出張相談を行うことで、地域包括支援センターのことで、そして、気軽に相談できる場であることを知ってもらいたい。
地域のお店などにささえあいネット登録の勧奨や挨拶をしていく中で、一緒にできることはないか考えるようになった。

③効果（見込み）

ささえあいネット登録店で場所をお借りしたことで、地域の方と接する機会が増え、地域包括支援センターのことを知っていただいたり、健康や介護について意識していただく機会となった。
ささえあいネット登録店とのつながりも強くなり、異変等があった際には連絡をしていただける関係構築にもつながっていくことを期待する。

②取組内容・工夫したこと

弘誓院



盆施餓鬼法要とお彼岸法要の際に、休憩や食事場所として使用されている大方丈の一角をお借りして、脳トレと介護相談を実施。

猿投温泉 日帰り温泉 金泉の湯



休憩スペースの一角をお借りして、毎月第2水曜に健康相談を行っている。血管年齢測定や筋肉量測定等を実施。

さなげマルシェ



第4日曜日に開催されているフリーマーケットで脳トレ・介護相談ブースを設置。

登録店によって、来られる方の目的や客層が異なるため、立ち寄ってもらいやすい内容や日時等を登録店と相談しながら決めていった。

小学5年生向け認知症サポーター養成講座

(こささの里地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

地域の若い世代の方に認知症に関する勉強会が開催できていない、認知症について学ぶ機会を提案して理解を深めてもらう

③効果（見込み）

- ・核家族の世帯が多く高齢者に関わる機会が少ない若い世代に学ぶ機会が作れた
- ・人気のある若い担任の先生に関わってもらい楽しく理解を深められた
- ・小学5年生の総合的な学習として毎年恒例の行事とする提案ができた

②取組内容・工夫したこと

- ・青木小学校に認知症サポーター養成講座開催の提案をした
- ・小学5年生の総合的な学習「ユニバーサルタウン青木」の授業の一環として認知症サポーター養成講座を開催した
- ・担任の先生にも参加してもらい親しみやすく、飽きずに学べる内容にした
- ・質疑応答の時間を十分に設けて自ら考えることで学びを深めてもらえた
- ・来年度以降も継続して開催できるように学年主任の先生にアピールをした



①目指す姿・困っていたこと

- ◆民生委員も包括も一人暮らし高齢者に関わっているのに情報が共有する機会がない
- ◆支援の必要な一人暮らし高齢者や高齢者世帯が把握できず、重度化してから介入するケースが増加

★見守りの強化
★早めに相談につなげる

③効果（見込み）

- ◎未把握の方の把握に繋がったり、情報交換することで今後の連携や見守りの強化につながった
- ◎災害時の高齢者支援について地域で話し合われていないことが分かった

今後の取り組み

開催を継続して、日ごろから民生委員と連携をしていくとともに、災害時の連携方法などについても今後検討していく

②取組内容・工夫したこと

3小学校区に分けて開催
民生委員とケアマネ・包括との情報交換会

〈事前準備〉
一人暮らし高齢者と包括やケアマネの担当利用者の自宅の場所に印をつけた自治区別のマップと個人の基本情報が記載された情報シートを制作



様子を見に行っても、会えない人がいます。どうしたらいいでしょうか？

その人は畑をやっているよ。元気そうだよ！

マップと情報シートをもとに対象者の現況を情報共有し、自宅の場所の確認

包括が未把握の方について民生委員より情報提供いただき、自宅の場所を確認してマップに追加実態把握につながる

さらに思わぬ効果として民生委員より「地区での会議でマップを活用したい」と要望あり、地域でも活用していただいた

ロバ隊長で認知症啓発

(豊田厚生地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

これまで認知症サポーター養成講座や認知症ミニ講座を開催してきたが、若い世代の参加は難しく幅広い世代に啓発をしたい…

地域の力を発揮して、全世代へ認知症啓発ができる！

ロバ隊長の出番だ!!



③効果（見込み）

地域住民からマスコット作りのボランティアに手助けしていただき、地域の力を活用した認知症啓発ができた。

自治区のイベントには子育て世代の若い方も参加していた。ロバ隊長をきっかけに認知症の方を身近で支える支援者として地域住民の意識向上に働きかけることができた。

②取組内容・工夫したこと

ロバ隊長のマスコット作り・配布

季刊誌でマスコット作りのボランティアを呼びかけ！
認知症カフェ、高齢者サロンやクラブに出向きマスコットを作成しました！



どなたでも作れるように、縫うタイプと貼るタイプの2種類を用意



地域の皆さんが作成したロバ隊長マスコット達！

浄水地区のイベントでマスコットと手作りキットを配布！完売！



多職種と連携し認知症にやさしい町を作ろう！

(みなみ福寿園地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

2020年、コロナ感染拡大により認知症カフェを中止していたため、地域の方が認知症について知る機会や、気軽に相談できる場がなくなっていた

→地域の専門職員と一緒に認知症カフェを再開しよう



③効果（見込み）

- ・共催とすることで専門分野の講話など内容が多岐にわたり、様々な企画を構想、実施することができた
- ・認知症本人や家族が気軽に参加でき、自然と人と人がつながる場となった
- ・末野原地区内での横のつながりができ、参加者の方も職員と顔がつながり安心感がうまれた
- 来年度に向けて構想会議継続

②取組内容・工夫したこと

R6.3月、R6.5.6月の3回
認知症カフェ再開に向けて構想会議開催

チームすえのはらを結成

メンバー：9事業所 ボランティア：2名



末野原地区の専門職が、誰でも安心して過ごせる場所や、情報交換ができる交流の場を作りたい！
みんなの力を合わせたら何かできるかも！

困ったなあ。みんな
で考えよう！

- ◎令和6年度は6回開催
- ◎2月は「認知症について学ぼう」寸劇を通して、認知症の方の気持ちや対応を学ぶ機会となった
- ・場所は交流館を拠点として9月、2月は地域へ出ていき初のサテライト開催！



財布を盗まれた！

災害に強い崇化館

(ひまわり邸地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

豊田市は、災害時に支援が必要な人々の名簿を作成し、公助・共助・自助の連携による支援体制を整備しています。しかし、近年全国的に水害や地震が多く、西山自治区では、災害発生時の対応方法が不明で不安を感じる声が上がっていました。そこで、災害に強い崇化館（西山自治区）を目指し、地域の課題を解決に取り組むことにしました。

③効果（見込み）

西山自治区の防災意識が高まった。
多世代参加型の西山自治区防災ふれあいフェスタが開催された。
避難行動要支援者名簿登録者に自主防災マップの「わたしの避難・救助行動」を記入していただいたことで、不安が解消し、避難所に行くまでの行動が明確になった。
「地域支援者同士の連携体制構築について」生活支援コーディネーター共催のもと災害対策コアメンバー会議が発足
近隣の施設と災害LINEグループをつくることのできた。

②取組内容・工夫したこと

「西山自治区の災害時の連携について」をテーマに社協CSWとコラボして（地域ケアシステム第2層地域ケア会議）を開催。

→災害時の連携強化のため、各自の課題共有と解決に向けたアイデアが出た。

地域ケア会議を開催

→避難行動要支援者を担当するケアマネ、民生委員と情報共有した。

自助力を高めるチラシ・マップ、「無事ですカード」を作成

→①②③を避難行動要支援者名簿登録者宅を訪問し、手渡した。



①西山自治区向けの防災対策チラシを作成



③「無事ですカード」を作成



地域とつながる認知症啓発

(わかばやし園地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

認知症の人や家族が安心して暮らせる地域

高齢者だけでなく多世代に認知症について知ってもらいたい

多世代が集まる場所、認知症の周知活動ができる場所等を情報収集開始

③効果（見込み）

多世代が集まる場所で地域包括支援センターと認知症の周知活動ができた。

- ・クイズや缶バッジ作りを行い60名以上の子育て世代がブースを訪れてくれた。
- ・子世代が缶バッジを作成している時間に親世代へ認知症のクイズや包括支援センターのPRを行うことができた。
- ・アンケート回答者60名中30名は包括支援センターを知らず、42名は認知症に関する勉強や講座を受けていないことが分かり、周知活動の必要性を感じた。

②取組内容・工夫したこと

社会福祉協議会高岡出張所CSWとの情報交換

- ・地区内にある高校は特別活動としてこども園とのかかわりなどを持っている。高校生の特別活動のひとつとして働きかけできないか。
- ・ワッカマルシェは若林八幡宮・浄照寺と歩行者天国約3000名が訪れるマルシェ。実行委員へブース出展の目的や内容をプレゼンすることで出展が可能になる。

WAKKAMARU

『ワッカマルシェ』の想い

1. お母さんの笑顔が家族の笑顔になり、家族の笑顔が地域の笑顔になる
2. 多世代交流ができ地域がわかかに繋がる
3. 暮らし続けたいまちづくり

『わかばやし園地域包括支援センター』の想い

多世代の人たちが認知症について正しく理解し、認知症の人や家族が安心して暮らせる地域にしたい



認知症の理解・啓発パネル展示



缶バッジ作り



アンケートの実施

ささえあいネットワーク会議

(地域包括支援センターくらがいけ)

①目指す姿・困っていたこと

コロナ禍で包括とささえあいネット登録店の顔の見える関係性が希薄になりかけている。ささえあいネット登録店の日頃の苦勞、困りごと等情報共有する機会がない。ささえあいネット登録をしていることを忘れかけている？

➡もう一度ささえあいネットを強化する！

③効果（見込み）

包括とささえあいネット登録店の顔の見える関係性を築き、認知症の方への対応方法や、緊急時の対応をともに考え、共有する事ができた。ささえあいネット登録店の理解と意識向上につなげた。

②取組内容・工夫したこと



工夫したこと

- ☆開催時間はささえあいネット登録店が出席しやすい営業時間後の19:00～に設定。
- ☆案内文を「会議」→「交流会」「グループワーク」→「座談会」にして参加しやすい雰囲気にした。
- ☆会議のグループワークはワールドカフェ方式を用い、活発な意見交換ができる雰囲気にし、また司会、発表者の負担を減らした。

4年ぶりのささえあいネットワーク会議に
22名の方に参加していただく！

高齢福祉課職員にささえあいネット、かえるメールとよた、認知症の方への対応方法、他地区の通報事例等の講話をしていただきささえあいネットの必要性、困ったときの対策を再確認していただく。くらがいけ包括よりこの地区の通報事例を共有。実際に通報して下さったささえあいネット登録店さんに発表協力をしてもらい、我が事として感じていただいた。

《地域でおやっと思ふ高齢者について》
グループ内で自由に意見交換してもらい、ワールドカフェ方式で共有。日頃、包括に連絡、相談されないケースがいくつかあり、ささえあいネット登録店の見守り、支えのおかげで認知症の方がこの地区での暮らしを継続出来ていることを改めて実感した。



多世代が集う地域の公共施設にて認知症啓発展示の実施

(ふじのさと包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

- ・昨年度から交流館の図書コーナーで展示を始めたが、図書コーナーに用事のある方にしか立ち寄っていただけなかった。今年度はより多くの地域住民に認知症について正しい知識を伝え、新しい認知症観を持ってもらいたいと考えた。
- ・心身の健康が保たれており、活発な社会活動が可能な前期高齢者に、認知症の早期発見・早期対応の必要性を理解してもらい、予防意識を醸成し、地域の見守り力を向上させたいと考えた。

③効果（見込み）

- ・合計128の認知症関連冊子や資料を配布することができた。
- ・スポーツや文化活動で利用する前期高齢者の方の多くがパネル展示をじっとご覧になっていたと施設職員から聞くことができた。
- 子どもから高齢者まで多世代に認知症について知ってもらうきっかけとなった。
- 前期高齢者に対し認知症の早期発見や予防の重要性を感じていただけたのではないと思う。

②取組内容・工夫したこと

「藤岡ふれあいの館」にて新たに認知症啓発展示を実施

取組内容

昨年度認知症月間に合わせて、交流館にて認知症の啓発展示を行った。今年度はより幅広い世代の方に目にしてもらえよう、新たに藤岡ふれあいの館でも1か月間展示を実施。パネル展示と資料の設置を行った。

工夫

藤岡ふれあいの館は、多様なスポーツや音響の設備が整っており、無料で利用できるプレイルームもあることから、子どもから高齢者まで幅広い世代がスポーツや文化活動などで利用する。多世代の利用者の目に触れるよう、ロバ隊長やガーランドを飾り、作って遊べるペーパークラフトや脳トレパズルを並べた。また、認知症の方、その家族、予防したい方、サポートしたい方などそれぞれに向けた内容の冊子を設置した。戸別訪問や季刊誌、出張相談等で展示の周知を実施。また、藤岡ふれあいの館の公式SNSでも展示内容を紹介していただいた。



ガチャガチャを活用した高齢者の活躍の場

(地域包括支援センター藤岡の楽園)

①目指す姿・困っていたこと

- ・趣味活動を通して、健康的に自分らしく生きがいを持って毎日を過ごしてほしい。
- ・多くの高齢者が趣味で作品づくりに取り組み、又過去に取り組みされているが、発表機会もなく家の中に溜まってしまっている。

地域の方に活動を見てほしい

③効果（見込み）

- ・多くの高齢者から作品提供の申し出があり、高齢者クラブやデイでの作品も提供いただいた。
- ・老若男女多くの方がガチャガチャを体験され、包括の周知活動にもつながった。
- ・ガチャガチャの様子を作成者に報告したことで、継続して作品を提供いただけている。

②取組内容・工夫したこと

高齢者・認知症の方・障がい者など
できる作業に協力いただく



包括

配布

+

展示

その手段として
ガチャガチャ
を立案



多世代に
わかりやすく
展開できる。

配布の様子を作成者へフィードバック（作成意欲向上）



ショートステイ
ご利用者に
カプセルに作品
を詰めていただ
きました。



地域行事にて
ガチャガチャ
を展開

市民メイト・サポーター共同企画による講座開催

(トヨタ地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

「市民メイトになってもどうやって活動したらよいか不安」との声



市民メイト、サポーター
包括メイトがつながり
みんなで認知症講座を
やってみよう

③効果（見込み）

- ・ 様々な視点を取り入れた企画が実現した。
- ・ みんなで実施したことで初めてメイトになった方でもイメージが付き活動意欲につながった。
- ・ メイト同士のつながりが強化された。

今後も活動継続
他の市民メイトへ働きかけ拡大

②取組内容・工夫したこと

市民メイト・包括メイト・認知症サポーターで
「ロバ隊長とゆかいな仲間」を結成！



メンバー：一般の市民メイト1名
一般の認知症サポーター1名
企業メイト3名
包括メイト2名

思いのある人と
つながりたい！
支援の輪を広げたい！

- ★みんなでアイデア出し
「認知症の理解を広げるためにどうしたらよいのか」等
- ★メンバー全員で企画、役割分担して実施する

第1回：認知症ステップアップ講座開催

テーマ「認知症の人を支える・つながる」

- ・ 具体的な接し方をロールプレイで学べるようにした
- ・ グループワークで話し合い自分ができることを宣言
- ・ 市民メイトが司会、サポーターが終わりの挨拶など実施



第2回：認知症サポーター養成講座開催

テーマ「認知症の人を知る・理解する」

- ・ キーワード「認知症の人の気持ちを想像する」寸劇実施
- ・ 介護者の経験談などリアルな声を聞く座談会実施



誰もが気軽に参加できる交流会（保見交流館共催事業）

(地域包括支援センター保見の里)

①目指す姿・困っていたこと

- ①目指すべき姿
多くの地域の方と多職種の方が気軽に交流できる地域
- ②困っていたこと
複合課題を抱える世帯が増えてきているが、多職種の人と地域の人が交流する機会が少ない

③効果（見込み）

医師、高齢、障がい、地域支援者など多職種が集い、地域の人と交流する機会ができ、今後の様々な課題がでたための、関係づくりとなった。また交流館と共催で開催したことで、PR周知も幅広く行うことができ、多くの方の参加につながった。

②取組内容・工夫したこと

歯科医による「歯と認知症について」の講話で歯の大切を理解する。

ヘルスサポートリーダーさんによるたべまる体操や地域包括支援センターによる脳トレ運動でリフレッシュ



就労支援B型の野菜販売や企業（中部電力（株））によるベジチェック体験、フードバンク、包括支援センターの出張相談等のブース展示。



- ・ 活動紹介をしながら、医療・高齢・障がい・ボランティアを地域住民が互に関心を持って、交流ができるように心掛けた。

地域の隠れた社会資源マップの作成

(つつみ園地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

地域の方が地域にある社会資源を活用でき、居場所づくりや交流のきっかけづくりをしたい。

③効果（見込み）

地域に活動の場をみつけ、外出意欲の促進（閉じこもり防止）や健康増進につなげられる。
自治区からはマップを小学校の学習資料として活用したいと要望があった。

②取組内容・工夫したこと

包括、区長、民生委員、社協CSWと4回の会議を開催。地域で人の集まる場所や、散歩している人の多いところ、祭りや史跡を挙げ、地図上に書き出した。道路を分かりやすくしたり、写真やマークを活用したりするなど、何度も改良を重ね、分かりやすく配置した。



今後、マップの掲示方法について検討する。

多世代で楽しめる交流館祭のブース出展

(地域包括支援センター益富の楽園)

①目指す姿・困っていたこと

・高齢者と同居の世帯が増えている中、若い世代やまだ介護に関心がない世代への地域包括支援センターの周知が難しいことが課題であった。

・実際に介護などに困っているご家庭があってもスムーズな介入ができないことがあった。

③効果（見込み）

- ・子どもからお年寄りまで集まる機会の多い、交流館祭にブース出展させていただき、地域包括支援センターの周知ができる。
- ・地域包括支援センターの存在を知っていただき、身近な高齢者の相談窓口として理解していただく。
- ・季刊誌やチラシを回覧していることもあり、地域包括支援センターの活動に興味を持っていただきた。包括ケアシステムの一助となっていくことを期待している。

②取組内容・工夫したこと

毎年、ふれあい祭り（交流館祭）でブース出展をしていることから、今年度は多世代でも楽しめる豆つかみゲームを行いました。
未就園児や学生さん、若いご夫婦から高齢者まで、たくさんの方の参加がありました。多世代の方に参加していただき、地域包括支援センターの周知活動を行いました！

30秒の制限時間の中で、黒豆とおはじき、ビー玉を箸で何個移動できるかで得点を競いました。

手先を使うことが脳の刺激になること、介護予防への意識、地域包括支援センターへの周知に繋げることができました！



お子さんから高齢者まで楽しく参加していただき、得点票に点数とニックネーム、年齢を書いてもらいました。



総勢140名以上の方にご参加いただきました！

孤独死が続いた市営住宅で地域ケア会議と全戸訪問を実施

(笑いの家地域包括支援センター)

②取組内容・工夫したこと

①目指す姿・困っていたこと

- 市営住宅（松平志賀住宅）でひとり暮らし未登録の高齢者が相次いで孤独死された
- 孤独死の予防対策ができないか住民から問い合わせがあった
- 市営住宅に入居されている高齢者の実態が把握できていない

③効果（見込み）

- 地域住民と関係機関との間で顔の見える関係性ができた
- チラシを手渡しできなかった方には、全戸ポスティングできたことで、2件の一人暮らし登録につながった

新規の65歳以上の入居者に住宅供給公社を通じて包括のチラシを渡してもらえることに！

地域ケア会議の開催

参加者：松平支所 社協高橋・松平出張所 地域包括
地域住民代表（松平志賀住宅評議員 区長 民生委員）

会議で出された問題点

- 市営住宅の住民に関する情報を、区長・評議員の権限では全戸把握できない
- 地域包括支援センターについての認知度が低い
- 最近孤独死された住民がいずれも一人暮らし未登録であった
- 孤独死を防ぐための住民同士の見守りが不足していた

会議での決定事項

一人暮らし未登録のお宅を
1件1件粘り強く訪問し、
支所・社協・包括のチラシを手渡す

地域住民からの相談事は、まずは窓口を
松平支所で一括
→支所から関係機関に連携する

※地域住民の問題の芽を
小さいうちに摘み取ることができる
体制づくりを目指す！



行方不明高齢者の通報・発見講座

(地域包括支援センターとよた苑)

①目指す姿・困っていたこと

行方不明高齢者の対応がスムーズにできるように、多くの地域住民に周知をして、早期発見につなげる。ご近所での見守り意識の向上

③効果（見込み）

実際にやることで行方不明になる高齢者の気持ちや声のかけ方、通報の手順を知ってもらうことができた。自分たちが早期発見の当事者である意識を高めることができた

②取組内容・工夫したこと

早期発見の当事者であるという事を意識した講座



私が第一発見者！？

動きがやしい…
私が声をかける？
誰かが声をかけてくれる？
見て見ぬフリしようか…
これって警察に連絡？

ひとまず声をかけてみよう！！

「徘徊＝目的があつての行動」

年々増え続けている徘徊高齢者の実情を踏まえ、早期発見の重要性を認識してもらえるよう講座を開催。「怪しいなあ」「おかしいなあ」と思う人を見かけることがあるということで、一人ひとりの意識が高くなっていくように感じました。「ひとまず声をかけてみよう！！」を合言葉に **どんな声かけてもOK！！** 参加者で楽しく実践してみました！！

まさになんてしよう…



認知症サポーターの活躍の場を増やそう

(ひまわりの街地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

認知症サポーター養成講座を受講しても、活躍の場が少なかった。

活躍の場を作り、地域全体で当事者、家族等を支えられる地域を！

③効果（見込み）

認知症サポーターの活躍、交流の場を広げていく。

講話や運動、茶話会では参加者だけでなく、サポーター自身のスキルアップにもつながる場を目指す。

②取組内容・工夫したこと

認知症カフェのボランティアをチラシや電話にて募集した他、紹介も繋がり

結果… **9** 名の方がボランティアに！！

初回はこちらからの指示で動いてもらっており、時間を持て余す場面もあった。

自分達でどんなお手伝いができるか話し合い、受付や誘導、お茶の準備等役割を決めることで主体的に動いてもらえるようになった。

その為

その他

講話や運動、茶話会時の見守り

特技を生かしたお手伝いも！



リラックスしながらワイワイと



かしこまらず自分スタイルで抹茶点て

更に

また、認知症サポーター養成講座のお手伝いも依頼

暮らしと街の情報誌 地域の社会資源ブックの活用

(みのり園地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

出かけたくてもなかなか歩けない

買い物に行きたい
バスや車があればいいけど…

！家にいても工夫をしてみよう！

③効果（見込み）

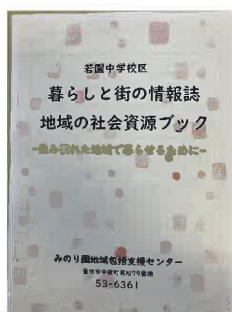
- ・初めてサロンに行ってみようかな…
- ・私でも宅配サービスを頼めるかな…
- ・交流館に行ってみようかな…

より多くの情報を得ることで、
初めてのことに挑戦し、
より有意義な日常生活を送ることができる

②取組内容・工夫したこと

～ 取組内容 ～

- ★この地域に特化した社会資源マップを作る
- ★高齢者の日常生活に必要な情報を収集する



【大きく見やすい地図】



【配食サービス等案内】



【サロン等案内】

- ①ささえあいネット登録店舗を周り協力を依頼
- ②自治区や民生委員等地域を知る方の意見を反映
- ③自宅にいながら食料を調達できるような案内を提示（配食、宅配サービス）



工夫したこと

- ④避難場所の再確認をし災害時の啓発を行った
- ⑤サロンや交流館の案内をし外出を促した
- ⑥新しい情報が入るごとに定期的にアップデート